授業づくり研修講座　実践レポート

座間市立南　中学校　　氏名　高橋　光紗

単元名　　第　３　学年　　「　初恋　」

実践のポイント（工夫）

・短作文のプリントに書き方のヒントを与えることで、文章のまとめることが難しい生徒でも論理性をもって文章が書けるようにした

・字数を80字～120字と短めに設定することで書くことが苦手な生徒でも自分の意見を書きやすくした

実践内容

|  |
| --- |
| 〈　授業内容について　〉  島崎藤村によって書かれた詩であり、展開もわかりやすく、初恋の心情を味わうという点においてもわかりやすい題材なのではないかと感じた。今回は「初恋」における林檎はこの詩の展開のなかでどんなことを暗示しているのか自分の意見をわかりやすく書くことを目標として、授業を行った。  〈　生徒について　〉  普段の授業から短作文を書く課題を課していることからも、大半の生徒は書くこと自体には慣れている。しかしながら、なかなか指定した字数まで書くことができなかったり、授業内容を理解する段階で躓いてしまったりするなど作文を書くことが難しい生徒もいた。 |

振り返り（成果や課題）

（　成果　）

・書き方のヒントを載せた結果、普段よりも文章の構成が読みやすく、また、理由づけも成された文章になっている生徒が多くなった

・普段の授業のなかに定期的に取り入れ、段階的にヒントを減らしたり、字数を増やしたりすることで書く力が向上するのではないかと感じた

（　課題　）

・一部の書くことが得意な生徒にとっては、逆に書き方のヒントを使ってしまうとまとめづらいという声もあった

→　ヒントの与え方にも工夫する必要があることがわかった

○プリントに載せず必要な人のみ板書をとり、作文に生かす

○２種類のプリント（ヒントあり、なし）を用意し、個々の生徒の力に合わせて配る

・今回は授業時間の関係上取り組めなかったが、作った作文を班で読み合い、作文を推敲する時間を取り入れることで、どのような工夫をするとわかりやすく論理性を持った文章になるのか考えることへつながったのではないか